

## 初級編・中級編との違い

カリキュラムコーディネーター養成講座<評価編>は、これまでの研修会参加者から、実際の改善に繋げるための具体的な手法をもっと学びたいという声を受け、開催することといたしました。

評価編では、初級編で学んだ理論に加え、実際に改善に繋げるための実践手法を学んでいただくことを目指します。

初級編を未受講の方も是非ご参加ください。

## 事前学習

本研修会は、事前視聴課題と、事前確認課題の2つがあります。事前視聴課題については、11月5日金曜日を目途にご案内します。事前確認課題につきましては、研修会当日までに行っておくよう、お願いいたします。

### 事前視聴課題

#### 卒業時の学習成果の評価

竹中喜一

卒業時の学習成果は、カリキュラムの評価と改善の主要な情報源です。適切に卒業時の学習成果を評価するための方法や、評価をカリキュラムの改善に活用するための工夫について理解します。

#### アンケートによる評価

竹中喜一

学習成果を把握する方法の1つとして、アンケートがよく使われます。どのような調査項目でどのようにデータを収集すれば、学習成果を評価することができるのかについて理解します。

### 事前確認課題

#### 所属組織のアセスメントポリシーの確認

当日までに、所属組織にアセスメントポリシーが存在するかを確認し、存在する場合は内容を確認の上、当日お手元にご準備ください。

#### 所属組織のカリキュラムに関する評価・改善活動の状況確認

研修会の中では、所属組織の状況に合わせて、カリキュラムの評価・改善活動を更に前に進める方策を考えます。所属組織内で、どのような評価・改善活動が行われているか、各学科の状況把握をお願いします。

## 参加申し込み

次のURLよりお申し込みください。

お申込み

<https://www.jaedweb.org/cc1>

問合せ  
メールアドレス

[info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

参加費

1人 20,000円

振込先

三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395 カ)マヒ トイヨウカミデザ インケン1ウジヨ

<含まれるもの> 当日資料代金 / 事前研修費用 / 11月19日20日の研修費用

日本高等教育開発協会 (JAED)

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: [info@jaedweb.org](mailto:info@jaedweb.org)

第2回

- 学習成果の評価から教育力向上に向けて動き出す -

# カリキュラムコーディネーター 養成研修会<評価編>

受講証  
発行

～ 組織がチームとして教育に取り組むための仕組み作り ～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 開催日程 2021年11月19日金曜日10:00から 20日土曜日17:00まで
- 対象者 カリキュラムまたは学習成果の評価・改善にかかわる教職員
- 開催方法 オンライン (Zoom)

定員 50名

〔事前課題があります。詳しくは最終ページをご参照下さい。〕

【主催】日本高等教育開発協会 【共催】株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

ここ数年で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化というキーワードに対する認知度が高まってきました。

一方で、カリキュラムの評価・改善や、学習成果の可視化のためにデータを集め始めたものの、そのデータをどう活用すればカリキュラムの改善に繋がるのかよく分からず、実質的な改善議論にはまだ繋がっていないというお話を伺うことも増えてきました。

カリキュラムのアセスメント方策は、一定の答えがあるものではありません。所属組織の状況に応じて、事務組織の負担とのバランスを考えながら組み立てる必要があります。

本研修会では、カリキュラムの評価・改善に関する取り組みを機能させ、実質的に効果のあるものとするための実践手法を、理論と事例の両面からお伝えします。

認証評価に向け準備の必要な高等教育機関の方はもちろん、受審を終えた高等教育機関の方も、カリキュラムの評価・改善活動の実質化を図り、所属組織の教育力を継続的に高めたいと願う皆様は、是非ご参加ください。

## このような方が対象です

- カリキュラムまたは学習成果の評価・改善に関わることになったが、まだ何から手を付けていくと良いか分からない方。
- どのようなデータを、どのように集めておくと、運用の手間を抑えつつ、適切な評価・改善に繋がるのか、収集すべきデータの選択肢を広げておきたい方。
- 所属組織の教育力を継続的に高めるため、評価・改善の取り組みを学内に定着させたいと願っているが、どのような可能性があるか、他大学の事例を知りたい方。

本セミナーは Zoomを使用してオンラインで開催します。

以下の環境で参加できることをご確認の上でお申し込みください。

- ・カメラ・マイクが利用可能で、かつ高速なインターネットに接続された PC 等が用意できること。グループワークを行いますので、1人1台をご準備ください。
- ・発言等ができる静粛な環境でご参加ください。(内蔵マイクよりも雑音が入りにくいヘッドセットを推奨)

## 到達目標

1. 学生の学習成果にもとづいてカリキュラムを評価する意義を説明することができる。
2. 学生の学習成果の評価の計画、実施、分析、改善の具体的な方法と課題を身につけることができる。
3. 所属組織における学生の学習成果の評価に関する課題解決の方法を提案することができる。
4. 学生の学習成果の評価に関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学び合う文化づくりに貢献できる。

## 講師



**中井俊樹**  
日本高等教育  
開発協会 副会長  
愛媛大学 教授



**西野毅朗**  
日本高等教育  
開発協会 理事  
京都橘大学 専任講師



**竹中喜一**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
愛媛大学 講師



**桑木康宏**  
日本高等教育  
開発協会 正会員  
学びと成長しくみ  
デザイン研究所 代表

参加者は本研修会を通じ  
所属組織における  
カリキュラム評価・改善の  
取り組みを  
より効果的に機能させる  
ための方策を考え  
アクションプランとして  
まとめる作業を行います

## プログラム

研修当日 ◆ 11月19日金曜日

開場 9:50

16:30 - 17:30

オリエンテーション <10:00 - 10:10>

10:10 - 11:00

### カリキュラム評価の意義と方法

～カリキュラム評価における主な論点とは～

中井俊樹

大学におけるカリキュラム評価とはどのようなものなのか、そしてなぜカリキュラム評価が求められるのかを明確にしたうえで、カリキュラム評価を進める際の主な論点と課題を理解します。

11:15 - 12:15

### 所属組織の評価の特徴と課題

～現状の確認と参加者間での共有～

竹中喜一

カリキュラムの評価とそれに基づく改善を行うための現状を振り返ることを通して、所属組織における評価の特徴と課題について考え、他の参加者と共有します。

### ランチタイム

<12:15 - 13:15> 各自食事。

13:15 - 14:05

### 評価の指針の明確化と実効性を高める工夫

～評価・改善の取り組みを機能させるための実践事例～

桑木康宏

評価の指針は作るよりも、機能させることが難しいようです。複数大学で実績のある評価の指針の参照モデルと、これを機能させるための実践から出てきた工夫をご紹介します。

14:20 - 15:10

### 在学中における学習成果の評価

～何のために、誰が、何を、どうやって評価するのか～

西野毅朗

学習成果の可視化が求められる昨今ですが、その目的は何でしょうか。学習成果の評価に関わる理論や一般的な状況を踏まえつつ、目的を達しうる具体的な方法論について考えます。

15:25 - 16:15

### カリキュラム評価の組織体制

～ハードとソフトの両面からの構築～

中井俊樹

カリキュラムを評価するためには組織体制の側面も無視できません。組織構造、制度、規則といったハードの側面と、リーダーシップ、協働、組織の文化といったソフトの側面から、カリキュラム評価の組織体制の構築方法を理解します。

### カリキュラム評価の課題解決案の作成

～評価・改善活動をより効果的に機能させるためのアクションプランを考える～ 講師全員

研修会で学んだ内容や他の参加者との対話などをもとに、所属組織のカリキュラム評価における課題を解決するためのアクションプランを考えます。

研修当日 ◆ 11月20日土曜日

### 組織の課題解決案に関する個別面談 <9:00 - 12:00 1名10分程度>

参加者のうち希望される方は、作成した課題解決案について講師と個別に面談（1人10分程度）を行います。研修初日に面談希望の有無をお尋ねします。

13:00 - 13:30

### <カリキュラム評価の実践事例1>

### カリキュラム全体を見渡した設計・評価・改善の取り組み

桑木康宏

カリキュラム評価を機能させるためには、設計、評価、改善のしくみ全体を、体系的に運用することが有効です。体系的に運用するとはどういうことか、実践事例をご紹介します。

13:30 - 14:00

### <カリキュラム評価の実践事例2>

### 現場目線で評価と改善を結ぶということ

西野毅朗

カリキュラム評価を実際の改善にどのように結び付けたかについて、学科レベルの実践事例（改組による評価・実習教育の評価・初年次教育の評価）をご紹介します。

14:15 - 16:50

### カリキュラム評価の課題解決案の修正と共有

～全体を通じた質疑応答と合わせて～

講師全員

作成した課題解決案を他の参加者や講師と共有しフィードバックを得たり、質疑応答を行ったりすることで、課題解決の実現可能性を高めていくことを目指します。

研修を終えて <16:50 - 17:00>